

令和5年11月

第8回 湯来地域における小中一貫教育校設置検討会議 発言要旨

【議事：湯来地域に設置する小中一貫教育校の設置場所について】

〈各団体からの意見等に係る教育委員会からの説明〉

① 検討スケジュールについて

小中一貫教育校を設置するのであれば早く進めた方がよい、あるいは、学校の設置場所については今回の会議で結論を出すべきとの御意見をいただいている。

前回の会議でもお答えしたが、本市としては、令和6年度予算要求に絶対に間に合わせなければならないといったことは考えていないが、一方で、皆様から出していただいた提言書には、児童生徒の減少に伴う教育面の課題解消は喫緊の課題であるとされており、本市も同様に捉えている。また、提言書では、湯来地域の学校の在り方として、5校を1校に統合した小中一貫教育校の設置を求めておられることから、少しでも早く、その教育環境を子どもたちに提供することが本市の役割であると考え、地域の皆様との協議を進めてきている。

② 通学手段（スクールバス）の確保等について

統合後の小中一貫教育校への通学手段について、現行の路線バスでは時間がかかり過ぎるため、スクールバスを導入してほしいという御意見をいただいている。

今回の統合は5校が1校になるという本市でも前例のない規模のものであり、現在居住されている学区と異なる学区に小中一貫教育校が設置されるなど、遠方から通学することになる児童生徒について、その負担が過度なものにならないように配慮することは大変重要な課題であると考えている。

そのため、実際にバスを運行する事業者との調整が必要となるが、御意見にあるようなスクールバスや、あるいはコミュニティバスなど、現行の路線バスに頼らない通学手段の導入を前提としながら、児童生徒の通学に伴う負担の軽減について、市の方で責任を持って検討を進めていきたいと考えている。

また、誰でも利用できる放課後の子どもたちの居場所づくりについても御意見をいただいているが、そうした環境の実現に向けても検討を進めていく。

③ 湯来らしいカリキュラムについて

小中一貫教育校の教育内容について、既存の小・中学校の良さや、小中一貫教育校の設置場所と離れた地域との関係性が失われることがないよう、湯来らしいカリキュラムとすること、また、そうした取組を進めるための移動費等の予算を確保してほしいという御意見をいただいている。

本市としては、新たに設置する小中一貫教育校において、既存の小・中学校における様々な取組を生かしつつ、湯来地域の自然、産業、そこに働く人々といった豊富な地域資源を活用した湯来ならではの魅力的な教育を行いたいと考えている。

そのためには、小中一貫教育校がどこに設置されたとしても、湯来地域全体を1つの教室として捉え、取組の内容に応じて、様々な場所で体験しながら学んでいくことが重要であると考えている。また、そうした取組に必要な移動費等の予算についても、確保していきたいと考えている。

④ 専門の事業者等から説明を受ける機会を確保することについて

候補地についてより詳細に知るために、防災や施設整備、スクールバス等、専門の事業者等から説明を受ける機会を設けてほしいとの御意見をいただいている。

本市としては、これまでも、会議資料や皆様からの御質問に対する回答については、その分野を所管する市の専門の部署と協議・調整しながら作成しており、検討に必要な情報は可能な限り提供するようにしてきている。

今後、より詳細な検討を行うに当たり、外部の事業者等の協力を得ることは必要であると考えているが、一方で、設置場所等が未確定の状況で、様々な作業を依頼することは現実的に困難なので、そうした検討については、設置場所の決定後に、皆様の御意見も伺いながら進めていきたいと考えている。

⑤ 候補地の見学、児童生徒の意見を聴く機会を設けることについて

候補地の見学を会議の一貫として開催することや、児童生徒の意見を聴く機会を設けてほしいとの御意見をいただいている。

本市としては、候補地を見学することは、実際の広さ等を体感でき、また、児童生徒の意見を聴くことは、小中一貫教育校における教育内容の検討を進める際などの参考になるものと考えているが、一方で、こうした機会を設けることは、今後のスケジュールに影響を与えることにもなる。

できるだけ早く設置場所について結論を出したいという御意見もある中で、設置場所の決定前にこうした機会を設けるのか、場所の決定後に改めて設けるのかなどについては、設置検討会議の皆様において御検討いただきたい。

〈学校の設置場所についての資料説明〉

(「資料1」～「資料3」により、教育委員会からの説明。)

〈意見交換・教育委員会への質問等〉

○ 構成員

設置場所の決定に向けた意見交換を行うに当たっては、会議の冒頭に確認している「4つの視点」に加え、来年3月の閉校が決定している湯来西小学校のことを頭の隅に置いてほしい。湯来西小学校の子どもたち、保護者、地域住民は、将来的に通うことになる小中一貫教育校がどのようなのか決定していない中で閉校を迎えるのではないかと不安に思っている。

湯来西小学校の統合について、小中一貫教育校が設置される5～6年後まで引き伸ばすことはできたが、少人数化が進む子どもたちの教育環境を思い、苦渋の決断で湯来東小学校との先行統合を行うこととした。

我々としては、新しい学校が1年でも早く開校されることを切に願っており、魅力的な学校になるのであれば、小中一貫教育校がどちらの候補地に設置されても構わないと考えている。

地域外から、バスで30分～40分かかったとしても、通いたい、通わせたいと思われるような、魅力的な学校を作っていくための議論に時間を使いたい。

● 座長

本日の議事も「小中一貫教育校の設置場所について」となるが、このことについて議論するのは今回で5回目になる。今、湯来西小学校PTAからも話があったように、湯来西小学校の児童、保護者、地域住民にしても、5～6年後に小中一貫教育校が設置されることを前提として、先行統合という苦渋の決断をされたのだと思う。

先ほど、教育委員会からは、設置場所がどこであっても、スクールバスなど、現行の路線バスに頼らない通学手段の導入を前提として責任を持って検討すると言ってもらった。

小中一貫教育校を設置するということは決まっているので、自分としても早く設置場所を決めて、具体的な内容についての議論に移った方がよいと思う。

○ 構成員

改めて、令和6年度の予算に間に合うための期限について教えてほしい。今回の会議で設置場所を決めなければ間に合わないのか。

※ 教育委員会教育企画課

今回会議で決めなければ、間に合わせるのはかなり難しいものと考えていただきたい。

○ 構成員

通学手段について、スクールバスなど、現行の路線バスに頼らない通学手段の導入を前提として検討を進めると説明していただいたが、確実に導入されるということが明確になっていないのであれば、当団体として、通学できるという判断はできない。

本日の「資料1」に、Google map で計測した一般的な所要時間が記載されているが、実態としては、湯来東小学校区の「宇佐」停留所の少し西寄りにある「津伏」の停留所から湯来東小学校までは20分程度かかっているようである。スクールバスでも、児童の数や居住地によって調整すると思われるため、乗用車として計測した時間とは異なると思う。

そうした点も踏まえて、バス事業者の説明を求めた方が、現実に近い説明をしてもらえるため、保護者も納得できると思う。先ほどの市からの説明にあったように、設置場所が決まらなければ、専門の事業者から説明を聞くことができないというのであれば、当団体として1か所に絞るのは難しいと考えている。

広島市としても前例のない、広範囲にわたる学校統合であるため、統合すればどのようになるかということを中心にシミュレーションせずに決定することは難しい。早期に結論を出すためにも、できるだけ具体的なデータを揃えて、議論を前に進めていきたい。

● 座長

通学手段について、路線バスでは時間がかかりすぎるため現実的ではないと考えている。そのため、先ほど市から説明があったように、スクールバスなど、現行の路線バス以外の通学手段を前提として、これから決めていくことになる。

○ 構成員

スクールバス等の通学手段について、市として、検討するという説明ではなく、導入を確約してもらえれば、当団体のメンバーにも説明しやすい。

※ 教育委員会教育企画課

関係部署とも調整した上で今回の説明をさせていただいているが、市としても、小中一貫教育校に現行の路線バスで1時間以上かけて通学するのは現実的ではないと考えている。そのため、例えばスクールバスのような、基本的に児童生徒が乗降する停留所にのみ停車する交通手段を確保する必要があると認識している。

そうした、現行の路線バスではない通学手段を導入する前提で進めるという説明をさせていただいたが、あくまでもバスを走らせるのは事業者であることから、市の方針としては決まっ

ている中でも、確約するという表現ができないことは御理解いただきたい。

○ 構成員

昨今の運転手不足等を鑑みると、実際に通学手段を検討する中で、結果として一部区間は路線バスを利用せざるを得ないというような事態になることを危惧している。

設置場所が決まらなると具体的なルート等の検討を事業者に求めることはできないとのことだったが、候補地は2か所に絞られているため可能なのではないか。

● 座長

一般的に考えて、設置場所が決定していない中で、民間事業者にスクールバスのルート、時刻表を2通り作成することを無料でやってもらうことは難しい。当設置検討会議自体も予算を持っていない。校舎の詳しい配置等についても同様だと思う。

※ 教育委員会教育企画課

例えば、湯来西小学校の先行統合の例で言うと、統合先が湯来東小学校に決まっていることから、湯来東小学校に通学することを前提として、バス事業者とルートの変更やダイヤ改正等について協議ができています。座長の言われるとおり、候補地が絞られていない中で、民間企業に作業を依頼することは難しい。

そうした中で、本日の「資料1」で各候補地までの距離と所要時間を示させていただきました。以前の会議で示した資料では、路線バスの全ての停留所に停車する前提で小中一貫教育校までの通学時間を試算したため、場所によっては1時間以上かかることとなっていたが、本市としても、そうした通学手段は現実的ではないと考えている。そのため、乗用車による一般的な所要時間をお示ししている。先ほども説明したとおり、この時間に、児童生徒がいる停留所のみ停車し、乗降した際に要する時間が加わるため、少なくとも1時間はかからないということをイメージしていただきたいと考えている。

● 座長

いずれにしても、スクールバスに準じたような通学手段を確保してもらえるとということでしょうか。

※ 教育委員会教育企画課

市としてはそのように進めていきたいと考えている。

○ 構成員

「資料1」に、クアハウス湯の山を利用した場合、年間を通じた水泳指導が可能と記載されているが、水泳の授業時間数はカリキュラムで決まっているため、そもそも、年間を通じて水泳指導を行うことはないのではないか。

※ 教育委員会教育企画課

言われるとおり、水泳の授業時間数は年間で決まっている。その上で、クアハウス湯の山は屋内の温水プールであるため、通常の学校では夏期に限定される水泳指導について、時期を選ばずに行えるという趣旨で記載している。

○ 構成員

これまでの会議での意見を聞く中で、皆さん、安全面と通学手段について不安を持たれており、この2つに議論のテーマが絞られてきているのだと思う。

議論を前に進めていくために、会議ごとに、これらのテーマに絞り、専門的な説明を聞きながら深く議論し、知らない部分を明らかにしていく必要があるのではないか。どちらの候補地に決まるとしても、各地域に納得してもらうための資料が必要になると思う。

また、湯来運動広場に学校を設置する場合には、グラウンドがかなり狭くなることが見込まれるが、例えば、廃校となる湯来中学校のグラウンドをサブグラウンドとして活用することはできるか。

※ 教育委員会教育企画課

小中一貫教育校の設置場所が決まれば、利用しない既存の学校は廃校となる。そのため、理論上、廃校となった湯来中学校の跡地をサブグラウンドとして活用することはできる。一方で、湯来運動広場から湯来中学校までの距離は約1 kmあるため、体育の授業等で日常的に活用できるかという点については十分に検討する必要があると考えている。

○ 構成員

水内地区は40～50名児童生徒がいるとのことだが、砂谷地区には広いエリアに約200名の児童生徒がいる。仮に、湯来運動広場に学校を設置したとして、通学時に砂谷地区の児童生徒約200名を大型バス5台で運ぶとなると、どこでどのように乗車させるかなど、それだけでも大変なことだと考えてほしい。そうしたことも踏まえて、児童生徒が多く住んでいるエリアに学校を設置する方向で考えてほしい。

また、会議を何度も開催して結論を先延ばしにするのではなく、設置場所を早く決めてほしい。

○ 構成員

自分は上水内地区に住んでいるため、湯来運動広場に設置してほしいという思いもあるが、一方で、客観的に見た場合に、湯来運動広場の場合には7億円以上をかけて体育館を建設する必要がある。また、グラウンドに校舎と体育館を建てるため、野球もサッカーもできなくなる。このようなグラウンドを子どもに与えることに懸念がある。

せっかく良い校舎ができるとしても、グラウンドが狭いというのは、湯来運動広場の不利な点だと心配しており、それを踏まえても湯来運動広場の方がよいとはなかなか言えないと思っている。

また、仮にスクールバスを導入する場合には、湯来体育館の場所であれば2,000万円で、湯来運動広場では5,000万円かかる。こうした、財政支出の面を考えても、自分としては湯来運動広場がよいとは言にくい。希望と現実にギャップがあり、迷っている。

○ 構成員

先ほども意見があったが、仮に、湯来運動広場に設置するとして、サブグラウンドとして湯来中学校のグラウンドが使えれば、中学生が放課後に部活できるグラウンドが確保できると思う。また、水内地区は地域資源も多く、立地的に湯来地域の中心でもあるため、設置場所として望ましいと思う。授業参観等で砂谷地区の保護者が学校に来る際には、スクールバスを活用するといったことも考えられると思う。

もう一つの候補地の湯来南運動広場について、敷地面積が広く、学校施設も建築しやすいの

だと思うが、これまでの会議では、砂谷地区の方から、徒歩での通学に不安を感じるという意見もあった。そうした点について、保護者の方がどのように考えておられるのか聞いてみたい。

○ 構成員

設置検討会議に際しては、十数人で構成される役員会における意見を取りまとめた上で、当団体の意見として述べさせていただいている。

中学生の保護者としての意見になるが、下の子がいない家庭では、設置場所を問わず、バス通学になったり、徒歩通学の距離が伸びたりしても負担になるという声はさほど出ていない。

また、小学生や保育園児等の下の子がいる家庭においても、兄・姉が通学している様子を見たり、一緒に通ったりすれば、自然と想像も膨らむだろうとのことで、通学についてのマイナスな意見は少ない。

これまで、湯来町から小・中学校がなくなる事態を回避するということを前提として協議を続けている。仮に湯来運動広場に学校が設置された場合に、砂谷地区の中学生としては、通学距離・時間がそこまで変わらないのであれば、三和中学校や城山中学校等、他地域の中学校を選ぶ人が増えることも仕方ない部分があると考えている。

また、湯来地域内外の人から、通いたいと思われるような中身のある学校にしなければ、どこに設置しても同じだと思う。

先ほどから、色々な取組について市からの確約がなければ説明ができないとの意見も出ている。心情は理解できるが、そうしたことを主張しても、市も答えようがないため、1年先も2年先も回答は変わらないと思う。市に実現してほしい取組があるのであれば、保護者・地域住民として、それが実現できるよう、市に対して強く働き掛けていくしか方法はないと考えている。

○ 構成員

当団体は、各部の部長が集まった運営委員会で取りまとめた意見を、当団体の意見として述べている。

当団体としては、湯来南運動広場に設置を希望する意見が多い。同敷地は現在の学校から近いことが大きな理由である。

一方の湯来運動広場は敷地にレッドゾーンがかかっており、擁壁等を設置したとしてもレッドゾーンであることに変わりはないため、そのような場所に子どもを通わせるのは難しいという意見が出ている。また、大型バス5台で通学することについても課題が多い。

そうした点を踏まえると、近くにある湯来南運動広場に徒歩で通学させた方がよいのではないかという意見が出ている。同敷地は坂の上にあることが以前から課題として挙げられているが、距離を短縮できるように通学路を整備するなど、今後、解決方法を検討できると考えている。

また、湯来運動広場では野球場・サッカー場として使えないほどグラウンドが狭くなってしまったため、クラブ活動が十分にできないのではないかという思いもある。

湯来南運動広場の人工芝の敷設、湯来体育館の空調整備などを考えれば、施設面においても、間違いなく湯来南運動広場の方が理想を持てると思う。

● 座長代理

湯来南運動広場の敷地は、**広島市と合併前の湯来町時代に、湯来町の中学校を1つにまとめることを前提に整備された**が、様々な事情により学校が設置されず、体育館と運動広場として使われながら、現在に至っているという経緯がある。学校を設置するために整備された土地と

ということもあり、資料にもあるとおり、学校設置に当たって多くのメリットがあるように思う。

通学路について、現状、杉並台団地から砂谷中学校に通学する生徒は、ショートカットできる山道を通っているが、以前は遠回りとなる道を通っていた。通学について改善すべき点は多々あると思うが、設置場所を決めた後で、一つ一つ改善していけると考えている。

湯来地域から学校を無くさないために、いかに良い学校を作るかということが前提にあるため、早く設置場所を決めて、具体的な内容についての議論を進めていくことが、湯来地域のためにもなると思う。

● 座長

そろそろ会議終了の時間となるが、これまで出た意見では湯来体育館の場所への設置を希望する意見、どちらでもよいので早くしてほしいという意見が多いように思う。他に意見はあるか。

○ 構成員

どちらの候補地に決まるとしても、一長一短があり、とても悩ましい。

将来的なことを考えると、湯来運動広場は、近くに湯来保育園があることから、小中一貫教育校が設置されれば、保育園から中学校まで通える、一つの学園都市のようなものができる。同敷地に設置する上での課題は様々あるが、解決できると思う。

○ 構成員

湯来地域から学校を無くさないという点でも、湯来地域の子どもたちが、湯来地域の魅力的な学校に通ってほしいという思いがある。砂谷地区で言えば、現状、部活動等を理由に他地域の中学校を選ぶ人もいる。湯来運動広場は面積等に課題はあるが、水内地区からであればどの学校に行くにしても距離があるため、離れた場所にある学校を選ぶ人は少なくなるのではないかと思う。

○ 構成員

主な意見は出尽くしていると思う。

自分の小学生の子どもは、50分ほどかけて徒歩で湯来南小学校に通学している。その子どもは、バス通学ができるなら湯来運動広場がよいと言っている。上の子どもは、家から近い湯来南運動広場がよいと言っている。設置場所については、家庭ごとに意見が千差万別であり、議論の中で答えを出すことは難しいと思う。

約2年間、学校の在り方に関する議論を続けてきたが、昨年、5校を統合して小中一貫教育校を設置するという方向性を決めて、今年は具体的な議論を進めてきたという経緯があることから、自分としては今年中に決めたい。議論を先延ばしすることにあまり価値はないと思う。

完ぺきではないが、結論を出すために必要な情報は出揃っている。

設置場所はどちらでもよいと思っているが、強いて言えば、湯来南運動広場がよいと思う。理由としては、レッドゾーンの指定の有無という安全面による。

● 座長

本日、詳細な情報がほしいという意見が出たが、市として、現時点でこれ以上詳細な情報として出せるものはあるか。

※ 教育委員会教育企画課

現状でお示しできるものは出させていたいただいている。

● 座長

本日は様々な意見が出たが、特に、早く決めてほしいという意見が多かった。ついては、本日の内容を各団体に持ち帰って議論していただき、次回会議で結論を出すこととしたいがどうか。

○ 構成員

次回会議で結論が出たとして、令和6年度の予算には間に合うのか。令和7年度に先送りになってしまうのか。

※ 教育委員会教育企画課

一般的なスケジュールで言えば、そのようになると考えられる。

○ 構成員

最終的に決めるのは行政なのだから、行政に決めてもらえばよいのではないか。

● 座長

あくまでも、当設置検討会議としての結論を踏まえて、行政が最終決定するという事になっている。

繰り返しになるが、本日の内容を各団体に持ち帰ってもらい、期限を決めた上で、各団体としての意見をまとめて、事務局に提出してほしい。その内容を踏まえて、どのように結論を出すのか、今後の進め方を検討し、皆さんにお知らせする。

○ 構成員

早く結論を出したいという方々の心情や理由はよく分かるが、結論を出すのは会議の場にすべきだと思う。見えないところで決まってしまうことは避けるべきだと思う。繰り返しになり申し訳ないが、当団体としては、本日の資料では結論を出すために必要なデータが出尽くしていないと考えている。

○ 構成員

自分としては、必要なデータは出尽くしていると思う。例えば、スクールバスで通学する場合の通学時間は、本日の資料にある乗用車で行く場合にかかる時間と、以前の会議にあった、路線バスを利用して全ての停留所に停まりながら通学する場合の時間の間の数値になることは容易に想像ができる。

また、湯来西小学区の「大谷」停留所から湯来体育館までは28分だが、湯来南小学区の「峠」停留所から湯来運動広場までは20分かかる。どちらの場所になったとしても、一定程度通学が不便になる子どもが生じることは避けられない中で、湯来地域全体を考えた際に、どちらの候補地がよいかという観点で決める必要があると思う。

レッドゾーンについて、専門家の説明を聞かないと詳細が分からないというのは理解できるが、一方で、砂防ダムが壊れてしまうような事例もあり、専門家が安全だと言えば絶対に大丈夫なのかという懸念もある。

そうした点を踏まえると、現在出ている情報をもとに選択するしかないのではないか。

● 座長

詳細なデータを知りたいとの意見だが、具体的にはどのような内容であればよいか。

○ 構成員

現状のデータでは、同じ内容を団体のメンバーに聞くことになってしまうと思っている。期限についても、急いで結論を出すべきか、時間をかけて考えるべきかということを経回聞いている。データがあまり変わらない中では、意見が変わってこない。

在り方検討会議の時から、当団体としては、5校が1校になる必要性は強く感じていなかった。湯来東小学校としては、人数も底が見えていない、湯来西小学校のような状況を経験していないという中で、現在の学校が素晴らしいと思っている。そのため、現在示されているデータだけでは、仮に、砂谷地域に小中一貫教育校が設置されるのであれば、小中一貫教育校が開校する時点で湯来東小学校も統合するという決断には踏み出せない。それならば、しばらく気が済むまで分校として存続させてほしいという意見がもう一度上がってくると思われる。他団体の方々が、そうした意見ならばそれでもよいということに認めていただいた上で小中一貫教育校設置に向けて進まれるのか、そうした意見は認めないとなるのか、どのように思われるのかが気になっている。また、本日の内容を団体に持ち帰って、どのような意見を取りまとめればよいのかについても教えてほしい。

○ 構成員

令和6年度予算に間に合うタイミングを逃せば、丸1年先延ばしになり、同じ議論をすることになってしまう。令和6年度予算に間に合うためにはどのようにすればよいか、期限も含めて、早急に確認した上で連絡してほしい。

地域住民としては、自分の地域に近い候補地を希望すると思われるので、結論が出ないのではないか。

○ 構成員

砂谷地区町内会連合会としては、各地区の代表者24名が全員、湯来南運動広場への設置を希望しているため、これ以上は出すものがない。

○ 構成員

水内地区町内会連合会としては、湯来運動広場への設置を希望するということでまとまっている。

○ 構成員

上水内地区町内会連合会としては、どちらの候補地ということではなく、現役世代の意見を尊重するということでまとまっている。

● 座長

いずれにしても、本日の内容を各団体に持ち帰ってもらった上で、様式は指定しないので、団体として、どちらの候補地を希望するのかといった意見を取りまとめてもらい、提出してほしい。結論を出すためには、少なくとももう1回は会議を開催する必要があると思うが、開催した場合に令和6年度予算に間に合うかどうかについても、市において早急に確認してもらい、皆さんに連絡してもらおう。

(以上)